

「舞鶴市教育振興大綱を策定」



この度、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、地方公共団体の長が当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることとなり、本市では市長と教育委員会が協議する総合教育会議を2回開催し大綱を策定しました。

育てたい子ども像は、「ふるさと舞鶴を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子ども」であり、「自立」と「自律」を重視し、「人への思いやりと感謝」を併せ持てるように、家庭・学校・幼稚園・保育所（園）・地域が連携して、地域ぐるみで子どもの教育と子育てを支援できる環境を整備します。

基本理念は「0歳から15歳まで切れ目ない質の高い教育の充実」であり、とりわけ0歳から就学前の乳幼児期は、人格形成の基礎が培われる最も大切な時期であり、善悪の正しい判断を持ち、自らを律することができる「自律」を育みます。切れ目ない「保幼小中連携」体制の中で、小中一貫教育では本市の豊かな自然環境の中で、特色ある歴史や文化などの地域資源を活かした教育に取り組み、知・徳・体のバランスのとれた人材の育成を行うことにより、中学校卒業時には将来の仕事などの目標を自ら定め自立していく「自立」を備えた子どもを育成します。

教育を重視するまちづくりは、舞鶴版地方創生の成功発展に密接に関連しており、積極的に進めたいと考えています。



～ 今月のおすすめ本 ～



すごい! 磁石
宝野 和博・本丸 諒

自動車やエアコン、ハードディスクなど、身近なところに使用されている磁石。これらに使われている高性能磁石は、人の見えないところで働き、製品の機能向上に役立てられています。本書は、磁石の基本的なしくみから研究の最先端まで、やさしく解説した読み物です。 (東)



図解・日本人のランキング
統計・確率研究会

買って後悔した家電は？ 残業が多い業界は？ 貯蓄額が一番多い県は？ カラオケの人気曲は？ 仕事で一番つらいことは？ など122のランキングを解説。世相を反映していて、笑えるものから納得のものまで、話のネタや仕事のヒントにおすすめです。 (西)

▶詳しくは、東図書館(☎62・0190) 西図書館(☎75・5406)へ。

防災Q&A ～ 天気編～

Q 天気予報で「大気の状態が不安定」という言葉をよく耳にします。大気の状態が不安定だとどのようなことがおこりやすいでしょう。

①晴れる ②霧が出る ③夕立



A 大気の状態が不安定とは、強い日射や上空の寒気の影響を受けて、周りの空気よりも軽い空気の塊ができた状態です。軽くなった空気の塊は気球のように上昇し、積乱雲(入道雲)を発生させることがあります。場所によっては夕立やゲリラ豪雨が発生します。

正解③

Q 積乱雲(入道雲)が近づき、雷が鳴ってきました。雨も降りそうです。適切な行動は次のうちどれでしょう。

①高く大きな木の下で雨宿りする ②地下道で雨宿りする ③頑丈な建物の中に逃げ込む



A 雷は周りよりも高いものに落ちる性質があることが分かっています。雷が落ちると、側撃雷(そくげきらい)といって電柱や木など雷が落ちたものから人間に雷が流れ、感電することがあります。



また、夕立による急激な雨は周りより低い所に流れ込み、地下道やアンダーパス(※)が冠水することもあります。



正解③

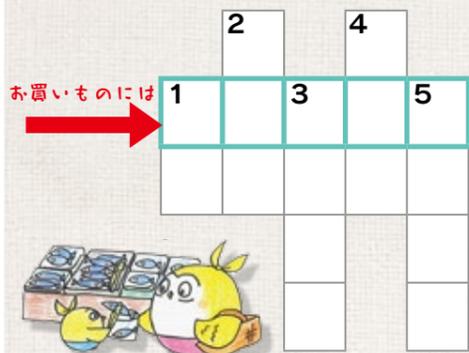
※…道路の下をくぐる立体交差

《危機管理・防災課》

ゴミ環境ワードパズル



ヒントを見て1から5のタテの欄にあてはまる言葉を入れてね。



- ぬらした新聞紙で〇〇ガラスを磨けばインクの効果でピカピカに!
- 車で出かける前には〇〇〇〇の空気圧をチェック
- 〇〇〇〇商品を選べば、トレ-2枚で約10㌔のごみ減量になるよ
- 日本で1秒間に634本消費されている〇〇〇〇ボトル
- 再生紙を使った商品についている〇〇〇〇マーク

答えは31㌔

《生活環境課》

「引き揚げ」の記憶を次世代へ

日本新聞

舞鶴引揚記念館に展示・保管している海外からの引き揚げやシベリア抑留などに関する約1万2千点の資料の中から、今回は「日本新聞」を紹介します。



▲この日の一面は「現代の偉傑 スターリン大元帥の誕生日」

日本新聞は、昭和20年(1945年)9月から昭和24年(1949年)11月までシベリアなどの収容所内で共産主義の教育普及のためにソ連により発刊されていた新聞で、日本語で書かれていました。新聞の主な内容は、スターリンやレーニンなどを賛美する内容や軍国主義の批判などでした。

様式は収容所によって異なり、壁新聞とタブロイド判

(※)の2種類で、週3回程度発刊されていました。当館に展示されているものはタブロイド判で、収容所の全員に配布されていたといわれています。また、収容所によっては、毎朝、日本新聞の内容を回し読みする「輪読会」が開かれることもありま

した。教育の機会に恵まれなかった一部の抑留者にとっては、初めての識字教育の場となったといえます。

その一方で、多くの抑留者は、配布された日本新聞をティッシュやタバコの巻紙、メモ帳の代わりにしていたことが手記に記されています。ある抑留体験者は「タバコの配給は時折あったが、肝心の巻紙がなく、毎週配布される日本新聞が役に立った」。また、別の抑留者は「食べるものは少なくとも出るものは出る。便所の紙はレーニンの肖像が描かれた日本新聞だった」と新聞の用途を記しています。物資が不足していた収容所では、共産教育が目的の日本新聞も抑留者にとっては、生活に欠かせないものだったようです。

そうした日本新聞は国外へ持ち出すことが禁止されていました。そのような中、この日本新聞を持って帰ることができたその寄贈者は、ソ連ナホトカ港での引揚船へ乗船する直前の様子について「身の回り品を自分の前に広げて検査を受けるのである。しかし、出発時間が迫っていたため私は見逃された」と書き残しています。

奇跡的に日本へ持ち帰ることができた日本新聞は、シベリアの収容所での共産教育の様子を知る資料としてだけでなく、収容所での生活の様子を伝える資料としても大変貴重なものなのです。

▶詳しくは、引揚記念館(☎68・0836)へ。

※タブロイド判…紙のサイズの一つ。およそ新聞紙を縦に1回折った大きさ。

広げよう 人権の輪

～年を重ねても「生涯現役」～

「80歳の現役ホームヘルパーA子さん」がケアマネジャーの資格を取得」というニュースが目にとまりました。彼女は73歳でホームヘルパー2級、76歳で社会福祉士の資格を取り、現在は週5日訪問介護にあたる日々を過ごしています。「これからも現場でヘルパーとして働くつもり。相手が待っていてくれる、喜んでくれるから、この仕事が楽しい」と語っています。「年齢に関係なく挑戦しようとする気持ちが大切」という前向きな姿勢には感動します。A子さんの介護が評判で自分もヘルパーをやりたいという高齢者が増えているそうです。

消的な不安によるものもあるかもしれませんが、これらの数字には「働くことで社会とつながりを持ち続けたい」「自分のことをもっと生かしたい」「社会の役に立ちたい」という高齢者の思いが表れているのではないのでしょうか。一方、こういった思いとは裏腹に、年齢を理由に「もういい年なんだから」「そんなに頑張らなくても」といった考え方があることも事実です。

本格的な高齢社会を迎え、国民一人ひとりが長生きして良かったと実感できる社会を築くことを目的とした、内閣府が5年ごとに60歳以上の男女を抽出して行う「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」があります。平成25年度調査において「あなたは何歳ごろまで仕事をしたいですか」という問いに「働けるうちはいつまでも」とするのが60代で24.4%、70代で33%、80代で37.3%と、年齢が高くなるとともに、仕事をしたいと思う気持ちが強くなる傾向がみられます。

戦後間もない頃の平均寿命は50歳だったとのこと。今や平均寿命は80歳を超え、4人に1人は65歳以上の高齢者というのが我が国の現状です。私たちは「高齢者=引退、隠居」と一律にとらえるのではなく「自立し誇りを持って社会を支える重要なメンバーの一員」として、とらえていくことが大切なのではないでしょうか。

《人権啓発推進室》



いつまでも仕事を続けたいという気持ちの中には、経